

LAN アクライザーの導入(10)

—AXIOM 80—

1. 始めに

前報(9)に引き続き、スピーカーシステムを替えて LAN アクライザーの効果を確認することにします。

2. LAN アクライザーLACU-1 の試聴計画

今回は、Goodman AXIOM 80 で試聴します。AXIOM 80 の最新の状態は、サブシステムの再構成(14)とスピーカーアクライザーの活用(7)で報告しています。なお、駆動アンプは、Pilotone Tungsol 5881pp アンプとします。

音源は STAGE+に限定して PC 経由で再生し、スイッチングハブから PC への LAN リベラメンテに LAN アクライザーを装着します。

STAGE+

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

バッハ クリスマスオラトリオ

エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイスト

モンテヴェルディ合唱団

シューベルト ピアノ五重奏曲「鱒」

リサ・パティアシュベリ (ヴァイオリン) 他

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

3. LAN アクライザーLACU-1 の試聴結果

上記の方法で LAN アクライザーなしで聴いておき、LAN アクライザーを装着して聴き直していきます。

AXIOM 80 の特徴は、立ち上がりは良いが、ハイが勝ちがちなことと、中高域の暴れが気になることです。スピーカーアクライザーの活用(7)でスピーカーアクライザーを導入したことで、中高域の暴れは後退していますが、さらに LAN アクライザーの効果はどう出るのが注目点です。

ベートーヴェンのピアノソナタでは、ポリーニの弾く Fabbrini の音の緻密さが向上しますが、左手の低音は不足気味です。

バッハのクリスマスオラトリオでは、ソリストの歌唱の質感が向上しますが、やはりオーケストラの高低のバランスが気になります。

シューベルトのピアノ五重奏曲「鱒」では、弦の粗さが取れますが、チェロの胴鳴りやコントラバスの量感は不足気味です。

バッハ無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータでは、ミンツのエネルギー感のあるヴァイオリンソロが聴けていますが、LAN アクキュライザーの装着により、高域の粗さがとれるものの、胴鳴りなどは不足しています。

上記のように、LAN アクキュライザーの効果は認めたものの、AXIOM80 の特性に由来するバランスに問題を残しました。

そこでアンプを **Rogers CadetIII**に変更し、**Rogers CadetIII**のトーンコントロールを活用することにし、ハイを押え、ロウを上げることにより、バランスを改善し、LAN アクキュライザーの装着をより効果的に発揮させることができました。

4. まとめ

AXIOM 80 のシステムにおいても LAN アクキュライザーの効果を認めましたが、AXIOM80 の特性に由来するバランスに問題を残しました。そこでアンプを **Rogers CadetIII**に変更し、そのトーンコントロールを活用することでバランスを改善し、LAN アクキュライザーの装着をより効果的に発揮させることができました。

以上